



学生数/約10000人
 学部/文、グローバル、法、経済、経営、アントレプレナーシップ、データサイエンス、人間科学、工、教育、薬、看護
 大学院/文学、言語文化、法学、政治経済学、経営学、データサイエンス、人間社会、仏教学、環境学、工学、教育学、薬科学、看護学
 THE世界大学ランキング日本版2021/131-140位、同インパクトランキング/801-1000位

アントレプレナーシップ学部の学び

育成人材像 変革期を機会と捉え、社会に対して傍観者でとどまることなく高い倫理観と志を抱いて自ら課題を設定、事業構想し自立自走することで「ことを成す」実践的な能力を身に付けた人

▶ 4年間の学びの流れ

年次	1年次	2年次	3年次	4年次
テーマ	「事業とは何か」を学び、基礎スキルとマインドを鍛え、実践する	社会課題とテクノロジーを学び、プロジェクトで課題解決のPDCAを回す	実際に起業し、挑戦と失敗を繰り返し、成長する	社会の未来を構想し、自身のテーマを定めて、踏み出していく
科目の一例	<p>▶ キャリアデザイン1 アントレプレナーシップに欠かせない「自らを導く=Lead the self」を追求する科目。自身の過去の経験を振り返り、学生同士で話し合いながら掘り下げ合い、自身の価値観や信念、「譲れない想い」を明確にし、固めていく。</p> <p>▶ プロジェクト基礎A~応用B プロジェクト科目は1年次から4年次まで全学期必修の中心的な科目。1、2年次は、少人数のチームを組み、さまざまなプロジェクトを自分たちで企画、実行し、振り返り、改善し、まずは「やってみる」ことを学ぶ。ほかに、「クリティカルシンキング基礎」「インターネットビジネス基礎」「ファイナンス・アカウンティング基礎」などを学ぶ。</p>	<p>▶ アントレプレナーシップ1A~4D 1年次後期から4年次後期まで全学期必修。第一線で活躍する起業家などとの対話を通して、自身のアントレプレナーシップを育む。</p> <p>▶ グローバルアントレプレナー(海外研修) 2年次必修の短期海外研修(1~2週間)。現地のスタートアップ企業を訪問し、自身の事業アイデアを英語でプレゼンする。</p> <p>▶ 事業計画A 事業計画の立て方を学び、自らも作成できるようにする。プレゼンテーションとフィードバックを繰り返す中で、「想いを計画に落とし込むスキル」を身に付ける。</p>	<p>▶ 倫理観2 ケースを題材にした議論と対話で倫理観を深めていく。人間の特性を理解し、自身の倫理観や、他者との向き合い方を学ぶ。</p> <p>▶ コーチング マネジメントに欠かせない「1on1(1対1)ミーティング」の実践手法を学ぶ。言いたいことが言い合えるチームにするためのコミュニケーションなどを、実践的なトレーニングで、使えるスキルにする。</p> <p>▶ ゼミナール1~5 2年次後期から4年次まで開設。少人数で事例を深掘りし、研究、討議、発表等を行う。教員と深く向き合う科目。</p>	<p>▶ デザインと事業創造 目標に向かうプロセスを最適化する「デザイン」を学ぶ。目標の実現に向け、個別の活動を俯瞰し、全体プロセスを設計し実行できるスキルを身に付ける。</p> <p>▶ マーケティングA 事業を行ううえで最も大切な「顧客」を見つめ、理解していくスタンスを学ぶ。マーケティング・リサーチの方法を学び、消費行動の分析や戦略の策定を繰り返す中で、顧客志向を身に付ける。</p> <p>▶ 組織・人事マネジメント チーム、組織をどう組み立てていき、機能させていくかを学ぶ。</p>

注目!

「密な人間関係」「没入感」「刺激」… 1年間の寮生活で得られるもの

「ことを成す」人材の育成に大きな役割を果たすのが学生寮だ。1年次は全員が、武蔵野キャンパスから自転車で25分の小平学生寮で共同生活を送る。

同学部が1年間の全寮制を採用した理由は3つある。1つ目は、密な人間関係の形成。社会を動かすには、人との連携が不可欠だ。毎日のように協働やいさかいを繰り返し経験し、人との適切な距離感を学ぶ。2つ目は、没入感。困難を乗り越えて志を達成するには、熱量が必要だ。寮なら「閉館」も「終電」もなく、寝食を忘れて議論や作業に打ち込む経験を積める。3つ目は、人から受ける刺激。生活を共にすることで、人の本質的な部分を垣間見ることができ。それが、自分の生き方やあり方を考えるときの材料になっている。

自身も週に5日、寮で寝泊まりし、昼夜学生の相談を受ける伊藤学部長は「夏ごろに、うまくいかず、もがいていた学生も、「うまくいっている人が特別な存在ではない。自分も同じように行動すれば必ずうまくいくはず」と周囲からの刺激で奮起していた。人と接してきた蓄積が生きている」と話す。



寮内の風景。教員の指示がなくとも、自主的に話し合いが行われる。下段右は、23時ごろになっても議論を続ける姿。

アントレプレナーシップ人材の育成

→ 企業の人材育成手法を取り入れた新学部設置

武蔵野大学

CASE STUDY

教員もカリキュラムも異例尽くし。日本初の「アントレプレナーシップ学部」は、高等教育にどんな価値をもたらすのか。設置初年度を終えた伊藤学部長に聞く。



アントレプレナーシップ学部 学部長

伊藤 羊一

いとうよういち ● 東京大学経済学部卒業。日本興業銀行、プラス(株)を経て、2015年ヤフー(株)入社。Zホールディングス(株)に商号変更後、Zアカデミア学長として次世代リーダーを育成。グローバル経営大学院客員教授。(株)ウェイウェイ代表。2021年より現職を兼務。

自ら一歩踏み出す姿勢を学生のうちに育てたい

本学着任前から私が学長を務める*1企業内大学では、毎年各界のリーダーが議題を持ち寄るカンファレンスを開催しています。2019年の開催後に、特に意義深かった議題を参加者に投票してもらったところ、トップ3は全て教育関連でした。「日本は、世の中をつくる人材の育成にもっと力を入れるべきだ」と盛り上がりました。私自身も社会人にリーダーシップを教える中で、「*2自らをリードし、社会でことを成す」アントレプレナーシップは、仕事に就く前から育成する必要があると感じていました。こうした思いと、武蔵野大学が考えていた人材育成の方向が一致し、2021年に新設する学部の立ち上げに関わることになったのです。

「学問→人」ではなく「人→学問」で教育を構築

人の育成を最大のミッションとする本学部は、学問を修めることを通してDPに掲げる人材像の実現を図るのではなく、めざす人材になるための経験を積み重ね、必要となる学問を修得するスタイルをとっています。そのため、「動いては学び、学んでは動く」がカリキュラムの基本。ワークショップがメインとなるため、テストは実施せず、プレゼンやレポートなどで成績を評価します。

授業科目は「マインド」「スキル」「アクション」の3つで構成されており、「アクション」の中心が、プロジェクト科目です。1年次はまず、人と協働して「とにかく動く」経験を積みます。あるチームは、学食のナプキンホルダーに、食事中の読み物となるビジネス豆知識を掲出しました。2年次は「Tシャツ販売」などの題材を通して、実ビジネスに触れていきます。3年次は、各チームが自分たちで会社を創業します。これらの活動を支えるため、「マインド」科目では対話を通じた目的の明確化や当事者意識の醸成を、「スキル」科目ではMBAで扱われるクリティカルシンキングやマーケ

ティンクスキルの育成などを行います。

指導で重視するのは、学生と教員が1対1で向き合う「1on1」です。めざす方向や進み具合が個人ごとに異なるため、一人ひとりに寄り添い、個別に面談することを基本にしています。これは、全教員が企業での仕事を持つ、現役の実務家教員である本学部においては、特別なことではありません。会社で部下に日々実践していること、そのものだからです。「議論が盛り上がるようにファシリテーターする」「客観的に自己を振り返るためのアドバイスをする」といった指導も企業での人材育成手法。その実践のエキスパートが、学生の指導に当たっています。

既存の学部とさまざまな点で発想が異なるため、最初は学部として成立するの不安でした。しかし、今ではいいものができたと自負しています。入学当初はまだ高校生の面影が残っていた学生たちも、1年を経て覚悟が感じられるようになりました。すでに起業し、外部資金調達を取り付けた者や、法人化目前にまで取り組みが進んでいるチームも複数あります。

将来はこの地を、「ことを成す」人が集い、磨き合う*3「ムサシノバレー」にしたいと考えています。

*1 ヤフー(株)内の次世代リーダーの創出を目的とした企業内大学「Yahoo!アカデミア」。現在は「Zアカデミア」に発展
 *2 「Lead the self」と呼ばれる、自分が大切にしたい想いを知り、めざすゴールを見据え、情熱を持って動き出す姿勢
 *3 世界中から起業家が集まり、有望なスタートアップが多数生まれるアメリカ・シリコンバレーになぞらえている

取材・文/児山雄介 撮影/荒川潤